

## 1 本学園の教育目標

豊かな自然環境を基盤に、体験と実践を通して、伸び伸びと個性を發揮できる教養高い社会人の育成をめざし、基本的な生活習慣、体力、学習能力、マナー等、バランスのとれた人格の形成を図る。

## 2 本園の教育目標

自然環境のよさを基盤に、体験と感動を軸にして各学年に必要な保育活動を行い、子どもたちの適切な成長を促すようにする。

- (1) 自然や文化、人とのふれあいを通して豊かな感性を培う。
- (2) 一人ひとりの個性や発達段階をふまえ、体力、知力、気力の醸成を図る。
- (3) 様々の活動に対してすすんで取り組める自主的な姿勢を育むようにする。

## 3 本年度の重点目標と計画

年少・年中・年長の各学年の発達の段階に応じ、発達に必要な保育活動を実施して、一人ひとりの成長を促すようにする。

- (1) 各学年の保育内容はねらいを明確にして構成し、週活動指導計画によって実際的な保育実践にあたるとともに、保育力・指導力向上のための各種の研修研究に参加するようにする。
- (2) 年少・年中・年長の各学年を適切な異年齢集団にまとめて、兄弟クラスやなかよしデーの取組みとしてその活動を広げるようにする。また、プレイルームとの交流を計画的に実施する。
- (3) 農園、果樹園での播種・定植・収穫体験による栽培活動と、それを食材にした給食室の調理、そして、子どもたちの給食までを完結する総合的な食育を推進する。
- (4) イングリッシュ・タイム「英語であそぼう」の活動を通して、ネイティブの先生との交流も含めグローバルなコミュニケーション力の基礎を培うようにする。
- (5) 子育て支援として運営するプレイルームとあずかり保育、また、ふれあいサロンや子育て相談室等の取組みを重視して、地域における子育ての輪を広げるようにする。
- (6) 年中・年長の生活と学びを小学校に連携的に接続するために、幼小中高が同一敷地内にあるという学園の環境を生かした幼小交流を計画的に実施する。
- (7) 毎月のお誕生会での音楽鑑賞や舞踊、観劇等の生の舞台の文化的体験を大切にして、子どもたちの感性を育むようにする。
- (8) ホームページ、園だより・学年だより等、広報活動の一層の充実を図り、保護者との信頼関係と協力関係をより親密なものに築いていくようにする。

## 4 評価項目の達成及び取り組み状況

## (1) 保育実践の実際

- ① 平素の実際的な保育について、各学年での保育内容の検討とクラス相互の保育参観を適切に実施し、指導力の向上を図ってきた。
- ② 「なかよしデー」等、年少・年中・年長の同年齢枠を取りはらい、異年齢集団のまとまりを意図的につくって活動する場を定期的に設け、それによる子どもたち同士の育ち合いで一人ひとりの変容が生まれてきた。
- ③ とまと、きゅうり、なす等の夏野菜の定植と収穫、さつまいもやじゃがいもの栽培活動を行い、子どもたちが育てて収穫した野菜が給食の食材として調理され、食べることができるという体験を大切にできた。そして、日々の給食に関わって仕事をする人々に対する感謝の気持ちももてるようになった。
- ④ ネイティブによるイングリッシュ・タイム「英語であそぼう」は、年間で各クラス7回ずつを実施し、ゲームや歌に取り組むことで英語圏の文化体験を重ね、感覚や心情のグローバルな刺激のなかで国際理解の環境をつくることのできた。
- ⑤ 幼稚園と小学校の交流会を、1学期は季節の行事、2学期は体育的な行事、3学期は教科学習体験

をとおして実施し、また、小学校放課後の「わくわくホーム」への体験会も実施して幼小の適切な交流を図ることができた。幼稚園と小学校のよりよい接続に資することができた。

- ⑥年間12回のお誕生会での舞台鑑賞会を行い、ヴァイオリン演奏、狂言、フラメンコ等をはじめ吹奏楽や人形劇の鑑賞に取り組み、生の舞台の感動体験を得ることができた。
- ⑦地域の子どもと子育て支援への取り組みは、週6日、月曜日～金曜日は午前8時から保育開始まで、保育後から午後6時まで、土曜日については午前8時から保育開始まで、保育後から午後1時半までのあずかり保育（長期休業中も実施）の実施、週4日、プレイルームを2クラスで運営し、また、年間17回の「ふれあいサロン」に述べ500組以上の参加者があり、不安や悩みの多い保護者とともに、地域の子育てをいろいろな面から支援することができた。
- ⑧ホームページや毎月の園だよりを中心に、幼稚園のようすや子どもたちの活動について、日常的に広報活動を行い、園と保護者との結びつきが深まるように効果的な発信をすることができた。

## (2) 園の施設、設備、園バス等の安全管理と安全確保

- ①園庭、中庭、なかよし広場、飼育小屋、遊具等については、毎日、保育活動前の安全確認を行い、月一回の全施設の安全点検・安全確認をし、少しでも危険や問題があれば、速やかに対処・善処できるように管理体制を継続してきた。
- ②通園バスの安全点検・確認は、毎日の運行前に行い、定期的な車両点検を実施して対処した。
- ③災害、不審者、侵入者等の発生に際して、安全を確保するために定期的に避難訓練を実施し、通報、安全確保、避難等のシュミレーションを実施した。

## (3) 保育力・指導力の向上と教員研修

- ①目の前の子どもたちの理解を深めるために、学年やクラスを問わず、全教職員で定期的に情報の共有化を図り、会議等においても共通理解を徹底するようにした。また、学年内の保育活動を公開して相互の参観と検討を行って指導力の向上を図った。
- ②教員の指導力の向上のために外部研修に積極的に参加するようにし、「研修成果の共有」「日常的な保育の公開と評価並びに意見交換」を柱にし、豊私幼・大私幼教員研修会や各種研修会・研究会等での研鑽をすすめてきた。

## (4) 子育て支援の実績

- ① あずかり保育
  - ・通常保育期間においては、週6日、月曜日～金曜日は午前8時から保育開始まで、保育後から午後6時まで実施し、土曜日については、午前8時から保育開始まで、保育後から午後1時半まで実施した。長期休業期間についても期間を設けて、午前8時から午後6時まで実施した。
  - ・箕面市から「子育て応援幼稚園」として認定を受けている。
- ② 未就園児と保護者への支援
  - ・プレイルームにおける保育の充実  
2クラス編成で、保育内容を吟味しながら保護者や家庭の協力を得て、学園の環境や幼稚園の施設も利用し、幼稚園児との交流も実施して相互の接続も図るようにした。
  - ・ふれあいサロンの充実  
地域の未就園児親子を対象に、交流の機会・遊び場を提供する「ふれあいサロン」には、毎回多くの方々が期待をもって参加された。遊び活動の内容や行事の内容を充実させ、親子間、子ども同士、保護者同士の交流が活発に行われ、いろいろな面から共感の広がる時間となっていた。
  - ・子育て相談室  
核家族化の進行が、保護者の子育てについての不安や悩みの孤立を招き、子育てに関するサポートの必要性を増大させてきた。本園では、自己開発研究所と連携しながら相談室での対応をして支援活動を行っている。

## 5 学校評価の目標や計画についての総合的な評価結果

- ① 園運営や保育内容・行事等について、毎学期及び年度末に全職員で意見交換し、より良い教育をめざすとともに、取り組むべき課題について共通理解を図り、次年度の具体的な目標設定を行う。
- ② 2学期はじめに全保護者への本園の保育と行事にたいする記述式アンケートを実施した。その結果、

本園の「体験×感動」を目標とする保育実践に共感と満足感をいただき、保育内容や教員の温かくきめ細かな子ども対応と積極的な指導力に高い評価をいただいた。

③地域の子どもと子育て支援（あすかり保育、プレイルーム）において、対象となる方々が増える傾向には変わりなく、地域の強い関心と要望を受けとめてきた。

## 6 今後取り組むべき課題

①本園のこれまでの保育教育活動実践について、新しい幼稚園教育要領のねらいをふまえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭にして検討を行い、教育課程全体の見直しをすすめる。

②ますます要望の強まる地域の子どもと子育て支援についての取り組みを、プレイルームでの活動を中心により重点をおいて推進する。

## 7 学校関係者の評価

人と場の環境を生かした保育教育内容をよく吟味し、今日求められている幼児教育の課題に応じるべく、目の前の子どもたちの成長と発達に必要な保育実践にあたっていることは、高く評価できるところである。また同時に、その保育カリキュラムは、課題となっている小学校教育に接続するための必要な条件整備に資する内容になっていると考えられる。

## 8 財務状況

別項参照